

序

わが歴史地理学会が一九五八年四月に、日本歴史地理研究会という名称で発足してから本年は満二〇年の記念すべき年を迎えた。

学会の名称は後に歴史地理学会と改められたが、創立以来、毎年学術大会と総会が開かれ、会員の研究成果は歴史地理学紀要として刊行され、わが国の歴史地理学の発展に寄与してきた。これは例会における研究発表の要旨を集録する会報とともに貴重な文献として高く評価されている。

本年はこの意義深い学会創立二〇周年を記念して紀要の特集号を刊行することとなった。既刊の紀要は毎年研究の主題を定め、これに従って会員の研究をすすめ、学術大会で発表・討議した成果を中心とし、その他の研究や論説を含めて集成してきたのである。

本巻は「村落の歴史地理——創立二〇周年記念特集——再び歴史地理学の本質と方法」と題してまとめたのである。

そのおもな内容は前編では歴史地理学の基礎理論と方法論を一括し、後編では村落の歴史地理学的研究の各論を集録したのである。

因みに歴史地理学の本質と方法については本紀要1（本質と方法）があり、集落関係では、紀要9（集落の歴史地理）・同10（集落の歴史地理続）および同19（都市の歴史地理）を主題として刊行し、その他の巻においてもこれらと関連のある論文が少くない。

しかし、学会発足以来二〇年の足跡も顧みると、斯学の基礎理論や方法論には不断の進歩があり、各個研究もその視野が拡大され、全国各地にわたって精緻な実証的研究が進められている。ここにおいて学会創立二〇周年を記念するとともに、将来の歴史地理学の発展の礎石となることを期して本巻を上梓した次第である。寄稿された会員の方々の労を謝し、編集の衝にあたられた委員各位に厚く御礼申し上げたい。なお、本紀要の刊行には財団法人畠山文化財団から多額の助成金を賜わったことを付記し、会員一同とともに深甚の謝意を捧げたいと思う。

一九七八年一月

矢 嶋 仁 吉